

令和 7 年度 小・中学校教育研究会視聴覚部会実践事例

(1) 郡市名 栗東市

(2) 研究テーマ

「Chromebook をはじめとした多様なメディア環境（マルチメディア）を通して、生きる

力と豊かな感性をもつ子どもの育成をめざした ICT 教育のあり方を追求しよう」

(3) 研究組織

	氏 名	所属校
部会長 (代表)	黒川 俊文	治田小
部会長	大西 知行	栗東 西中
運営委員	伊藤 陽平	大宝小
推進委員 (支部役員)	田村 圭賢 梅原 悠貴	大宝東小
会計担当		

(4) 年間の研究（事業）報告

1 月、大宝東小学校第 1 学年にて授業実践。

(5) 取り組み

第 1 学年 国語科での実践

「デジタル比較表を活用した説明文の読解－『どうぶつの赤ちゃん』

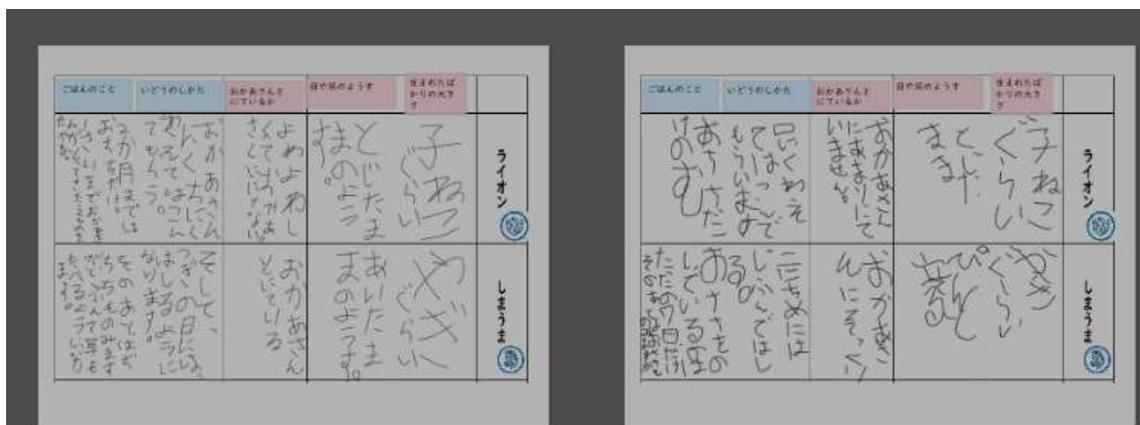
における情報の整理を通して－」

1. 活用実践の概要

本単元では、ライオンとシマウマの赤ちゃんの違いについて、「生まれたばかりの様子」や「大きくなっていく様子」を比較しながら読み取る学習を行った。

低学年の児童にとって、文章のみで複数の対象を比較することは認知的な負荷が高い。そこで、ICT 端末を活用し、以下の活動を取り入れた。

- ・ デジタル比較表の活用： 教科書の記述に対応する写真やキーワードを、タブレット上の比較表に整理。ライオンとしままを比較したのち、「ぞう」の文章を読み、ぞうはどちらに似ているか、どちらとも似ていないのかを観点別に比べ、ぞうのマークを動かしながら表へ整理した。
- ・ 双方向の共有： 自分がまとめた比較表をクラス全体に配信し、友達の気付きと自分の気付きを即座に比較する活動を実施。



ごはん	いどうのしかた	おかあさん にしているか	目や耳のようす	生まれたときの 大きさ		
やがて おかあ さんが とった えもの をたべ る。 	生まれ て二か 月くら いは、 おちち だけ 	おかあ さんが 口にく わえて はこん でくれ る 	あまり にいて いない 	とじて いる 	子ねこ ぐらい の大き さ 	ライ オン 
そのあ とは おちち ものむ がじぶ んで 草も たべる 	七日 ぐらい はお ちち だけ 	生まれ て三十 分もた たない うちに 、立ち 上がり て つぎの 日には はしる。 	おかあ さんと そっくり 	目はあ いてい て 耳はび んと立 っている 	やぎぐ らいの 大きさ 	しま うま 

2. 主な成果と課題

【成果】

- ・ ICT 活用の基礎スキルの定着

1年生という発達段階において、当初は操作面に不安もあったが、ログインから写真の貼り付け、カードの移動といった基本的な操作をスムーズに習得することができた。これは、今後の他教科での ICT 活用に向けた大きな一歩となった。

- ・ 視覚的な支援による理解の深化

デジタル比較表に写真とテキストを並べて配置することで、動物ごとの違いが「目に見える形」となった。これにより、内容の読み取りが苦手な児童にとっても、情報の整理が容易になり、理解の助けとなった。

- ・ 学習意欲の大幅な向上

「自分のタブレットを使って調べる」「表を完成させる」というプロセスそのものが、子どもたちの探究心を刺激した。従来のノートへの記述に比べ、集中力が持続し、意欲的に取り組む姿が多く見られた。

【課題】

- ・ 活動内容の精査（盛り込みすぎの解消）

「比較表の作成」「全体の共有」など、ICT でできることが多い分、1 時間の授業の中に活動を詰め込みすぎてしまった。その結果、じっくりと文章を読み深める時間や、友達と対話する時間が十分に確保できない場面があった。

低学年においては、ICT を使う目的をより絞り込み、「何のために使うのか」という重点化を図った時間配分が今後の課題である。